令和６年度　清水町立清水中学校　学校だより

六華の教え

自立・共生・協力・挑戦・探求・創造

令和６年８月２９日 第１７号文責　校長　内田得裕

ＡＩ時代にあっても「１％の可能性」

村尾　秀人

今年の夏休み期間中に、パリオリンピックが７月２６日から８月１１日までの１７日間に渡って開催され、世界中が熱く盛り上がりました。その中で数多くの「逆転」の場面が放送され、ニュースでも話題となりました。　特に、スケートボード男子ストリートで大逆転の末、金メダルをつかんだ堀米雄斗（ほりごめ　ゆうと）選手の試合後の言葉が印象的でした。

大逆転までのストーリーは、

・最終５回目の試技を迎え、７位のメダル圏外にとどまっていた。
・そこで挑んだのが、実戦で成功したのはこれまで１度きりという高難度の技に挑戦し、シャツをひるがえして滑り降り、ビタッと着地を決めた。
・普段はクールな堀米選手が、思わずほえた完璧な技だった。
・高得点を得て、大逆転でトップに立ち、東京大会に続く２連覇を遂げた。

金メダル獲得後のＴＶ放送で、堀米選手は「少しの可能性、１％の可能性を最後まで信じた」とコメントしました。もちろん、過酷な練習に裏付けられた最後の最後で信じるに足る１％の光を見付けていたからこその大逆転だったと思います。

スマホやタブレットが世の中にあふれ、様々なものがオートメーション化されるＡＩ時代が到来する中で、「１％の可能性を最後まで信じた」という言葉に衝撃を受けました。

さて、過日、今年度の全国学力・学習状況調査の結果が学校に届きました。この調査は、学習の状況を把握する目的もありますが、子どもたちの生活等の改善につなげるためのものでもあります。生徒質問紙の調査結果から、本校の特徴的な結果の一部をご紹介いたします。

①自分にはよいところがあると思いますか？
　　６０．９％(全国４０．４％)

②将来の夢や目標を持っていますか？
　　５０．０％(全国３６．１％)

全国的に自己肯定感が低い子どもが多いことが課題となっている中で、「自分にはよいところがある」と回答している生徒が多いことはとてもよいことだと捉えています。また、夢や目標を持てる地域・学校であることも本校の特筆すべき点です。今後、学校生活や部活動においても「１％の可能性」を信じて、思う存分に力を発揮してくれることを願います。

９月行事予定

２日～２７日　教育実習
３日　芸術鑑賞
４日　３年租税教室
５日　生徒会役員選挙
６日　シェイクアウト
７日　全十勝中体連秋季剣道大会
　西部南部中体連秋季バドミントン大会
９日　清水町英語暗唱大会
１０日～２０日　書写ボランティア
１１日　３年学力テスト
１４日～全十勝秋季サッカー大会
１８日　校内意見発表大会
２０日　文化祭特別時間割開始
２７日　英語検定

部活動等の記録

この夏休みに４種目５名が全道大会に出場しました。大城海志さんが柔道大会で優勝し、長野県佐久町で行われた全国大会に出場してきました。１年生での優勝は本当にすごいことを達成しました。

また、吹奏楽部は帯広地区吹奏楽コンクールに出場し金賞・山川賞を受賞。全道大会には惜しくも届きませんでしたが、最高の演奏でした。とっても感動しました。

そして１・２年生中心の新人チームが始動しています。陸上では榊蓮さんが高跳びで標準記録を突破し全道新人大会に出場が決まりました。おめでとう！新人チームはまだまだ完成されたプレーではありませんが、一生懸命取り組んでいる姿は好感が持てます。失敗を恐れずどんどんチャレンジしていってください。

＜全道大会に参加して＞

伊藤快「昨年全道大会に出場してたくさんの経験を積み、もう一度あの舞台に立ちたいと考えていました。そして迎えた大会本番では、２年半の部活動の集大成を発揮することができました。目標にはわずか届きませんでしたが、試合が終わった後、やってきたことは間違いではなかったと思えました。柳田先生をはじめたくさんの方にサポートしていただき感謝でいっぱいです。これからも自分で考え楽しくバドミントンを続けていきたいです。」

篠原奏「中学生になって二回目の全道大会で昨年はすごく緊張していい記録が出ず、悔しい思いをしたんですが、今年は目標の準決勝に進むことはできなかったんですけど、昨年よりは２種目ともいい記録が出せたので、毎日練習を頑張ってよかったなと思います。色々な方に応援していただき、本番では緊張せず走ることができました。ありがとうございました。」

大西璃衣「私は全道大会でいい経験ができました。ベストタイムが出せなく、よい結果を残すことができなかったけど、悔いが残らないように全力で泳ぐことができたのでよかったです。そしてずっと目標にしていた全道大会に出場することが実現できたので嬉しかったし、一生の思い出になりました。」

藤谷俊輔「初めての全道大会で緊張しましたが、開催地が帯広だったので同じ少年団の人が応援に来てくれたり柔道の友達もいたおかげで緊張が少しほぐれ練習の成果を精一杯発揮することができました。全道大会に参加して、十勝の選手を応援したり、全道の舞台で試合ができたりなど、色々いい思い出ができました。これから高校に行っても柔道で習った礼儀を生かしていきたいです。」

大城海志「柔道の全道大会に優勝できて嬉しかった。準決勝まで一本勝ちだったんで、決勝は技ありのポイントをとれたからほぼ１００点でした。決勝の相手には別の大会で負けていたので今回勝ててよかったです。全国大会は、とにかく疲れました。めちゃくちゃ緊張して会場にのまれました。悔しかったけど今回は柔道の先生に場慣れしろといわれていたので、来年はベスト４を目指して頑張ります。」

北海道中学校体育大会水泳大７／２７会　大西璃衣　平泳ぎ１００ｍ予選1'４０"２０
北海道中学校体育大会陸上大会７／２７　篠原奏　１００ｍ予選１３'３１０、２００ｍ予選２７'７３
北海道中学校体育大会バドミントン大会８／１　伊藤快　２回戦敗退
北海道中学校体育大会柔道大会７／３１　５５ kg 級 大城海志 優勝、６６ kg 級 藤谷俊輔１回戦敗退
全国中学校体育大会柔道大会８／２３　５５ kg 級　大城海志　２回戦敗退
帯広地区吹奏楽コンクール　金賞・山川賞
卓球選手権カデット８／７
　勝田圭太ベスト１６、髙田結愛ベスト１６、（代表戦にて小澤茉里乃の３名が全道大会出場）
西部南部秋季野球大会８／１７・１８　２位　vs 大樹広尾７－０、vs 芽室芽室西０－１
西部南部秋季卓球大会８／２４　男子団体２位、女子団体優勝、小林美咲２位、髙田結愛３位
西部南部秋季サッカー大会８／２４・２５　３位 vs 芽室芽室西２－１ vs 新得０－３ vs 大樹広尾３－０
全十勝秋季野球大会８／２４　vs セントラルノース２－３
全十勝新人陸上大会８／２４・２５
　榊蓮　走高跳び優勝１ｍ５０、武藤歩　四種競技３位１２７０点・砲丸投げ６位７ｍ３３
　成松龍我　走高跳び４位１ｍ３５、女子４００ｍリレー（桑嶋羚愛・上田莉央・武藤歩・池田希望）８位５７'０４

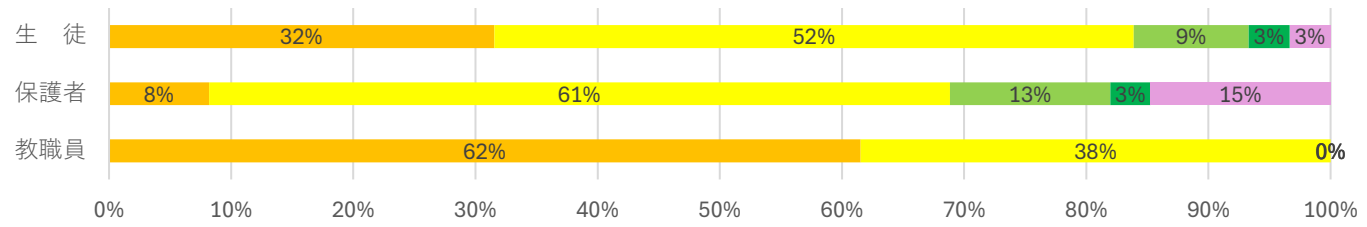
令和6年度　前期学校評価アンケート結果と考察

１学期末に生徒･保護者･教職員の三者による学校評価を実施いたしました。保護者の皆様には、お忙しいところ回答にご協力いただきまして、ありがとうございました。この結果を令和６年度後半の学校運営に生かします。12月の後期の学校評価アンケートもご協力をよろしくお願いします。

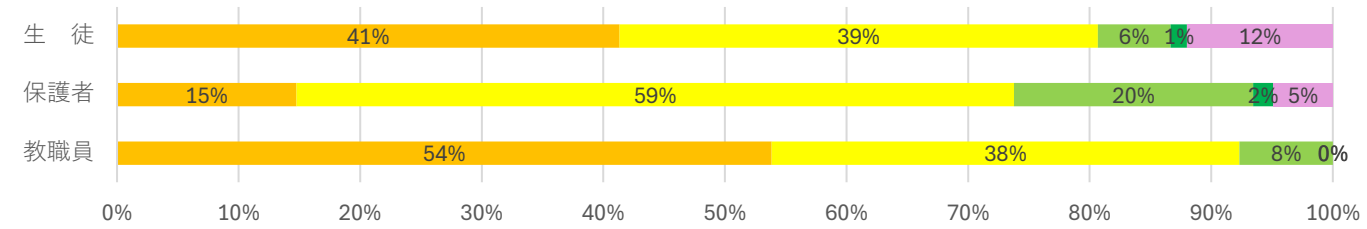
【十分できている－４　おおむねできている－３　やや不十分－２　改善が必要－１】

赤数字→昨年度より0･2ポイント以上高い　**黒数字→昨年度並み**　**青数字→昨年度より0.2ポイント以上低い**

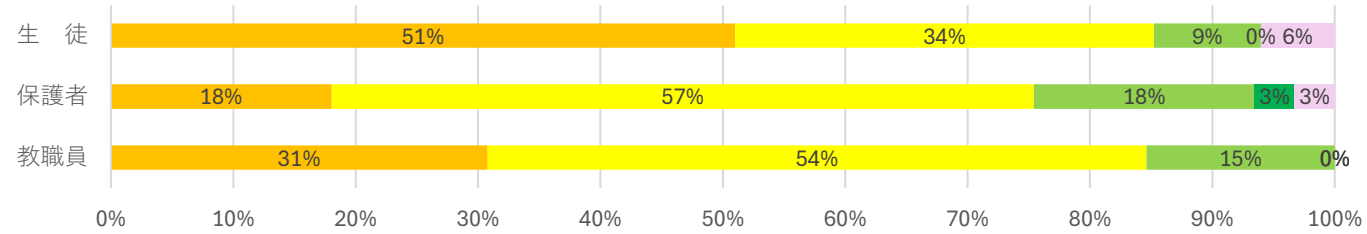
	評価項目	生徒	保護者	教員
1	教育目標「六華の教え」を意識して学校生活を送っているか	3.2	2.9	3.6



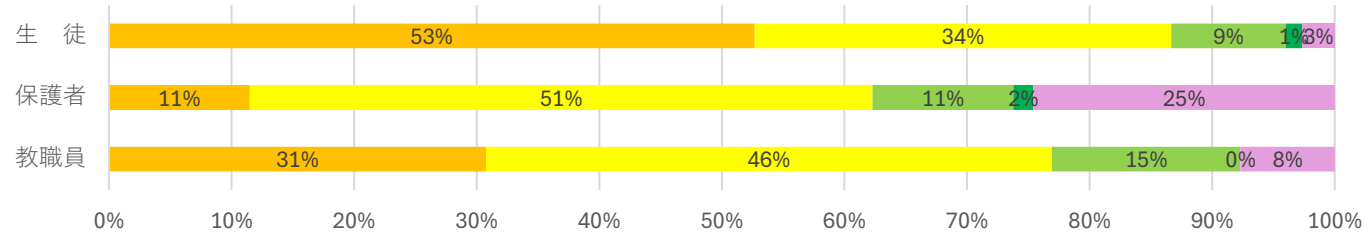
2	表情豊かに未来に向けて進んでいるか	3.4	2.9	3.5



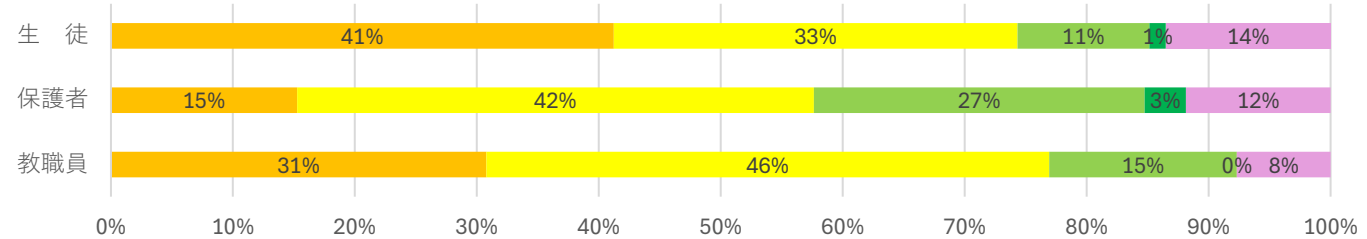
3	学習や生活の基礎・基本が定着してきたか	3.5	2.9	3.2



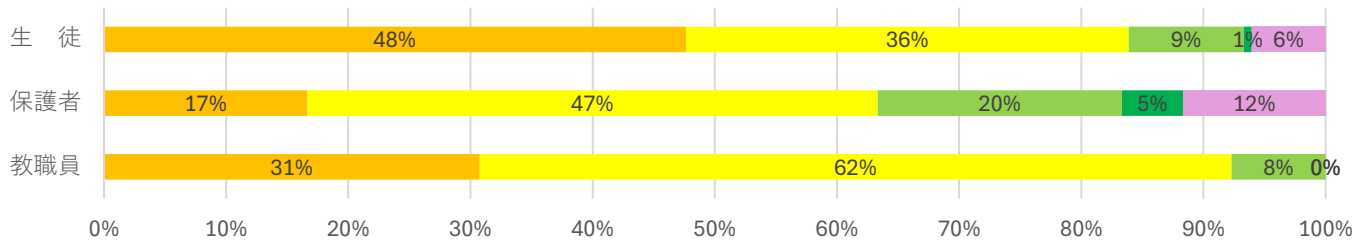
4	自分で考えたり、発表したりする姿勢や力が身に付いたか	3.4	3.0	3.2



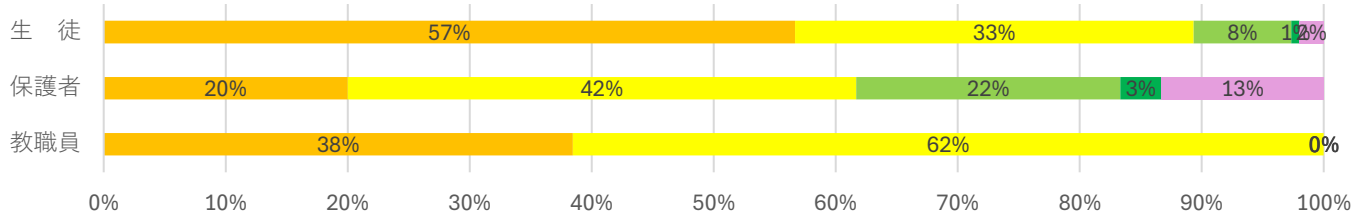
5	将来の生き方を考えるようになったか	3.3	2.8	3.2



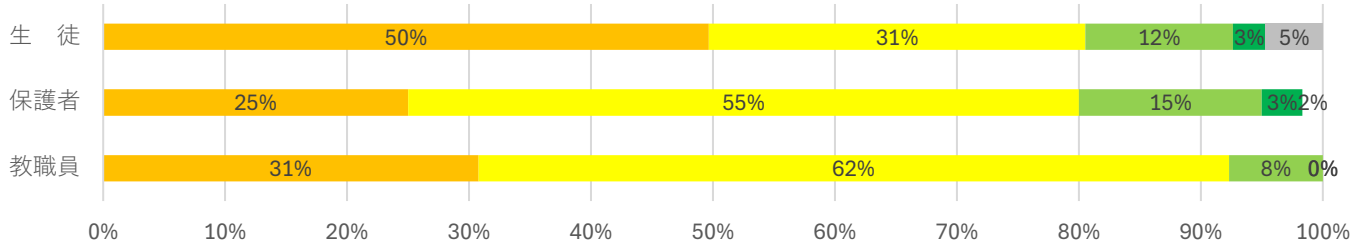
	評価項目	生徒	保護者	教員
6	健康や安全に意識が高まっているか	3.4	2.8	3.2



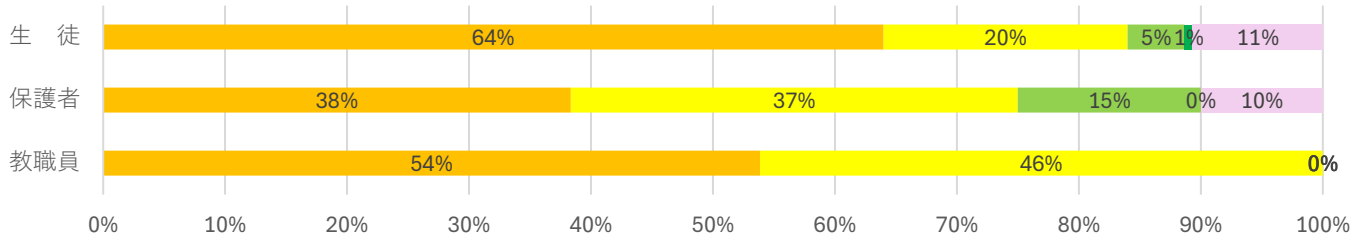
7	元気よくさわやかに挨拶ができてきたか	3.4	2.8	3.2



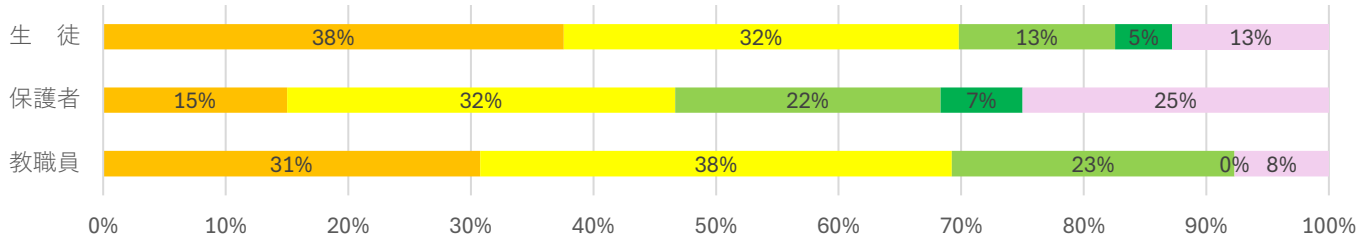
8	学校で楽しく過ごしているか	3.3	3.0	3.2



9	先生方は子どもたちに適切な対応をしているか	3.6	3.3	3.5



10	学校の活動を通して、ふるさとが好きになっているか	3.2	2.7	3.1



総合評価	設問１「教育目標『六華の教え』を意識して学校生活を送っているか」では、今年度の新しくなった「六華」について生徒と教職員は意識した生活となっておりポイント大幅に上がっているが、保護者は微増のポイントであった。 設問４「自分で考えたり、発表したりする姿勢や力が身に付いたか」では、校内研究による授業改善の成果が少しずつ表れているため、ポイントの増加につながったと考えられる。 設問８「学校で楽しく過ごせているか」では、生徒の意識と教職員の意識に違いが見られ、コロナ禍を過ぎた生活が違いを生み出していると考えられる。 設問９「先生方は子どもたちに適切な対応をしているか」では、保護者のポイントが下がっており、我々の言動についてもう一度見直して、気を引き締めて教育活動に当たりたい。